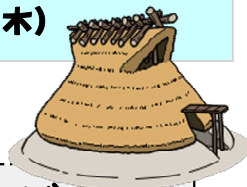




三島市立山田小学校

出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年9月7日(木)

「授業で学んだことの体験ができて、子どもたちがとても喜んでいました。」

三島市立山田小学校の6年部の先生方が、社会科の歴史の授業で、子どもたちに実体験をさせたいという目的で、6年生60人が石器の試し切りと火起こしの2つの体験を行いました。



石器の試し切り体験



猿人や原人から縄文・弥生時代までの歴史を振り返り、大昔の人々が石などの道具を手に入れ、どのように使いこなしていたのかを学びました。

打製石器・磨製石器・黒曜石など、鉄が伝わるまで、石がいろいろに使われていたことを知り、黒曜石で新聞紙や野菜を切ってみました。黒曜石の切れ味にとっても驚いていました。

「黒曜石があんなに鋭いとは思ってなかった。」



「歴史で習ったものの実物に触れて良かった。昔の歴史のことをもっと勉強したい。」



火起こし体験



まず初めに、もみぎり法や弓ぎり法等を紹介しました。そして、舞ぎり法のやり方を説明しました。やり方が分かったところで班に分かれて準備です。弾み車を調子よく回せる班は、しばらくすると火種を作ることができ、火種を火口(麻)にのせ、ロングフーフタイム。上手に息を吹きかけられた班は火を起こすことができました。何人かの子どもたちは、火起こしをしたことがありましたが、大多数の子どもたちは火起こしをしたことがなかったので、火が起きたときはとてもうれしそうでした。

「昔の人は、ちゃんと料理ができていたことがすごい。」



「火が起きたときには感動した。」

「今は簡単に火がつくけど、昔の人は時間をかけてやっていたすごいと思った。」



先生方の感想

「授業で学んだことの体験ができて、子どもたちがとても喜んでいました。専門的なお話や指導が受けられました。センターの方々には、とても丁寧にご対応いただきました。」

